

## 勲章受章

－ ハイテク加工の生みの親 工学系では初の受章 －

荒田吉明名誉教授が2006年度文化勲章を受章され、11月3日宮中において親授式が行われました。天皇陛下から文化勲章が授与され、引き続き内閣総理大臣から勲記が伝達されました。

荒田名誉教授は、長年にわたり高温工学・溶接工学の研究を続けてこられ、多大な業績をあげられました。

長年の「超高エネルギー密度熱源」に関する基礎的研究により、高エネルギー密度の新熱源を開発・実用するとともに、これを新素材や高機能複合材など各種の材料の熱加工に応用し、従来明らかにされていなかった熱加工特性を解明されました。高温工学と溶接工学に関する新しい技術分野と学問体系とを確立すると同時に日本で初めて公開による核融合反応に関する実験に成功するなど、世界的な成果をあげられました。

これらの研究成果は、原子力関連施設はもとより、ロケット、超深海船などの大型精密構造物建設への応用をはじめ、大規模集積回路（超LSI）などの超微細加工に至るまで、中核的な溶接・加工技術として世界的に広く活用され、「ハイテク加工」の生みの親としてもその工学的貢献は極めて大きいと評価されたものです。

プロフィール：1924年、京都府生まれ。1949年、大阪帝国大学工学部溶接工学科卒業。大阪大学工学部教授を経て大阪大学溶接工学研究所教授。退官するまで10年間は、同研究所長。1988年退官。同年荒田記念館設立。文化功労者・日本学士院会員。



## 開所式開催

10月16日、タイ国・バンコクにおいて、宮原秀夫総長をはじめ、理事、総長補佐等の出席のもと、バンコク教育研究センターの開所式が盛大に行われました。同センターは、学生・研究者の交流、共同研究の推進、そして大阪大学のプレゼンスを高め、学生・研究交流の一層の推進という好循環を期すものであります。さらに、バンコクという立地を活かし、東南アジア全体のハブの役割を担っていきます。

(詳しくはキャンパスニュース(24ページ)をご覧ください。)



開所式で挨拶する宮原総長